

# 新基地建設反対名護共同センターニュース

## 県議選で「オール沖縄」候補の勝利を!



吉田氏(右端)から要請を受ける左から比嘉事務局長、仲本会長、東恩納常任理事



名護民主商工会は16日、前沖縄県政策参与で県議予定候補(国頭郡区)の吉田勝廣氏(写真)の訪問を受け、情勢や当面の課題などで懇談しました。民商側は仲本興真会長、比嘉末美事務局長、東恩納琢磨常任理事(名護市議)が対応しました。

**知事支える与党候補の全員勝利へ**

懇談では民商側から、新型コロナウイルス感染症で飲食業など地域のあらゆる業種が空前の危機に直面している実態が訴えられました。そして、農漁業を含む自営業者への休業・生活補償を県が実施するとともに国に対しても求めていくことの重要性を確認しました。また、軟弱地盤などで破綻している辺野古新基地建設を中止させ、国の予算をコロナ対策など国民の命を守るために優先させようという一致。懇談を受け民商側は、でデニー県政を支える「オール沖縄」の与党候補全員勝利めざし会員640人に訴え総力を挙げる方針と決意を伝えました。

“「辺野古」の予算をコロナ対策に”  
 吉田予定候補と名護民商が懇談

### ジュゴン鳴き声2か月連続で 環境監視委が確認

国の環境監視等委員会は15日、沖縄防衛局から辺野古の基地建設現場の海域に設置した水中録音装置で2月に引き続き3月もジュゴンとみられる鳴き声が記録されたことの報告を受け確認しました。また、大浦湾で環境省の絶滅危惧種(レッドリスト)に登録されているオキナワハマサンゴ1群体が新たに見つかったことも分かりました。

#### 3月に5日間で計23回の鳴き声

ジュゴンとみられる鳴き声が記録されたのは2月と同じ地点。3月6日に9回、9日に1回、13日に6回、25日に2回、29日に5回確認されました。一方、ジュゴンの姿は確認されず海草の食べ跡も見つからなかったとのこと。

#### 県の行政指導に従わない防衛局

県は4月17日、文書で「工事を止めた上でジュゴンの行動を調べるよう」に防衛局に行政指導しましたが、防衛局は15日の委員会で工事停止については議論しませんでした。不当にも県の指導に従わない態度を示しています。



20日現在、辺野古の工事は中断しています。

## 新型コロナから営業とくらしを守ろう! 助成金の申請など会内外から民商に相談者殺到

### 国が77㍍までの軟弱地盤認める

河野太郎防衛大臣は12日、参院委員会で井上哲士議員(共産=写真)の追及に、大浦湾の「海面下77㍍まで軟弱地盤」と認め、従来説明を変更する答弁をしました。政府説明に次々とボロが出てきていることに県内から批判が高まっています。13日付の地元2紙も大きく報道しました。



コロナ問題での非常事態宣言で臨時休業を余儀なくされていた中小業者から悲鳴が上がっています。こうした中、沖縄県内の民主商工会は「助成金や融資を受けコロナ危機を乗り越えよう!」と宣伝を先行させ、相談会を積極的に展開しています。いま多くの業者が助成金申請など手続きの相談のため民商に殺到しています。

**名護では50人が相談 入会者も**

名護民商では、週2回昼夜の相談会を設定し、5月前半で約50人の相談者が相次ぎました。会外からの相談者もあり10人が民商に入会しました。

沖商連の知念事務局長は「困っているときこそ民商の出番です。全県で力合わせて危機を打開したい」と話しています。



名護民商の相談会で申請を援助する具志堅夕エ子副会長(右)